関川村 議会だより

第145号
令和８年（2026）
11月15日発行



十五夜祭　～秋の実りに感謝～

関連記事は３ページ

村のホームページでもご覧になれます。
http://www.vill.sekikawa.niigata.jp/

発行　関川村議会　　発行責任者　議長　小澤　仁
編集　議会広報常任委員会　TEL（0254）64－1494

令和7年度 決算一般会計

歳入 68億7989万円
歳出 66億4331万円

9月 定例会議

決算審査特別委員会　議会の視点は・・・

●執行状況の検証
予定された事業がきちんと実行されたか
効果はあったか

●効率性と公平性
地域や年代に偏らず、効率かつ公平な施策となっているか

●将来への持続性
歳入の確保状況など、将来世代に負担を残さないか

事業の成果や主な質疑は以下から
令和7年度決算審査特別委員会Q&A

3876万円



【事業概要】
ふるさと納税の返礼品にかかる発送業務委託料。

Q 寄付金額はいくらか。

A 通常分が8733万7000円。企業版は40万円だった。

【ふるさと納税業務委託料】

4179万円



【事業概要】
関川産コシヒカリの魅力を発信するため首都圏でイベント等を開催した。

Q どのような内容か。

A 「おにぎりぼんご」によるおにぎり講座、インフルエンサーによる情報発信、PRチラシの作成をした。

【観光振興対策費】

554万円



【事業概要】
大型バスを小型バスへ入替えしたもの。

Q 七ケ谷地区では雪で大型バスが通れない場所があるが、その対応か。

A バスの老朽化と園児の減少によるもの。普通免許で運転できる。

【通園バス運行事業費】

4179万円



【公営事業会計】
【事業概要】
滝原(松平)地内の下水道の不明水(漏水)工事。

Q この工事で、この地区の不明水は。

A メインの大きい工事は終わったが、カメラ調査を通じて補修工事をしていきたい。

【下水道事業】

1798万円



【事業概要】
タブレット端末を小学校に179台、中学校に66台を整備した。



五十嵐 僚さん
(安角)

子どもが情報を正しく扱えるよう育ってほしいです。

【学校管理費】

5967万円



【事業概要】
アチェーロ解体工事など、道の駅周辺を整備して利便性を高めた。



平田優太さん
(下関)

大型遊具の近くに駐車できるので助かります。

【道の駅周辺整備事業費】

表紙の小話

光兎神社十五夜祭
(宮前)

祭が始まった夕方は曇空でしたが、神事の後、お月様が顔を出してくれました。
音楽ライブや屋台、名水と福餅の振る舞いもあり、村内外から参拝者で祭は大盛況。
祭の当日は、準備から片づけまで、神主や氏子の皆様は朝から汗を流されていました。


地元の子どもたち


女川地区の氏子の皆様

９月定例会議・臨時会議（７月）開催

―内容は抜粋―

報告

専決処分

■令和８年度関川村一般会計補正予算
２００万円追加

●公共土木施設災害復旧費の追加で、７月の降雨による村道３か所の修繕が早急に必要となったため。（滝原／南赤谷）

議案

■令和８年度関川村一般会計補正予算
３４８０万円追加

●総務管理費　２５２万円
●社会福祉費　１３００万円
●清掃費　１５３万円
●農業費　５４８万円
●林業費　２００万円
●商工観光費　１５０万円
●道路橋梁費　７００万円
●消防費　８０万円

問　近壽太郎議員

有害鳥獣駆除対策事業費５３０万円の内訳は。

答　農林課長

猟友会へのジビエ処理施設整備補助金で４３０万円、備品代１００万円。


ジビエ処理場予定施設

問　加藤和泰議員

施設の規模と年間のジビエ処理見込み頭数は。

答　農林課長

施設は、丸山公園管理棟に付帯する形で約40平米。処理見込み頭数は昨年で約35頭捕獲しているが、被害も拡大しているため猟友会の方で更に増やして頂きたい。

問　鈴木紀夫議員

地域振興費の広告料で地域おこし協力隊募集の内容とは。

答　地域政策課長

今回は、道の駅ちぐら館の活性化をミッションとして、イベントの企画や情報発信を担う協力隊を募集。



地域おこし協力隊

９月定例会　議員評決結果

区分		議案	小澤　仁	加藤つや子	川崎哲也	近　敬志	近壽太郎	加藤和泰	高橋正之	菅原　修	平田　広	鈴木紀夫	可決結果
臨時会議	議案	前瀬橋橋梁補修工事請負契約の締結について	―	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	可
		令和８年度関川村一般軽々補正予算（第３号）	―	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	可
定例会議	議案	令和７年度関川村各会計の決算認定についいて	―	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	認
		令和７年度関川村下水道事業会計の決算認定について	―	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	認
		令和７年度関川村簡易水道事業会計の決算認定について	―	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	認
		関川村認可地縁団体印鑑条例の一部を改正する条例	―	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	可
		村道路線の変更について	―	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	可
		令和８年度関川村一般会計補正予算（第５号）	―	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	可
		令和８年度関川村介護保険事業特別会計補正予算（第１号）	―	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	可

可＝可決　採＝採択　同＝同意　認＝認定　○賛成　×反対　－議案が議員本人に関する場合や議長は採決に加わりません。

「私立高校の入学金等の負担軽減と専任教員増など教育条件の向上をはかるため、私学助成の増額・拡充を求める意見書」の採択を求める陳情書は不採択です。

第5回臨時会議

7月28日開催

議案

■前瀬橋橋梁補修工事請負契約の締結

2億2550万円

- 施行場所　関川村金丸地内
- 契約方法　一般競争入札
- 契約相手　株式会社渡辺組

■令和8年度関川村一般会計補正予算

1億2320万円追加

- 農業振興費　2760万円
- 林業整備事業費　4000万円
- 道路橋梁維持費　4400万円
- 社会教育費　900万円

問　鈴木紀夫議員

農業振興費補助金の詳細は。

答　農林課長

コンバイン3件、田植え機1件の補助申請に対応。

問　平田広議員

災害復旧工事費は、大半が国県の補助ではあるが災害債は該当しないか。

答　農林課長

災害復旧の基準に該当せず、普通修繕の復旧工事。

見どころ!!

■社会教育費「900万円」は「渡邉邸・魅力向上プロジェクト」事業!!

渡邉邸の文化的価値を「知って」「観て」「体験して」もらう新たな取組みで誘客も多いに期待できそうだ。



議会モニター『アンケート』

開かれた議会を目指しています

令和8年9月定例会議アンケート（主な意見を抜粋）

1. 興味ある一般質問は？

- 米の返礼品を主に、これから村の返礼品の拡充をしていってほしい。
- 重要質問となる米坂線復旧の件は、質問・答弁ともにサラと流れている感が否めない。

2. 議会に対する要望

- 答弁者ともにマイクの声が割れていて、聞き取りづらかった。音声環境を整えてもらいたい。

議会だより第144号アンケート（主な意見を抜粋）

1. 写真やレイアウトについて

- 表紙は、皆さんの表情から敬老会7年ぶり開催の喜びがうかがえる。
- 議員表決結果報告の議案が小さい。

2. 関心を持った記事は？

- 村民の声・・・話題性のある方をピックアップされていていい。
- 一般質問・・・加藤和泰議員の将来の人口減少を見据えた行政運営。
  2050年はまだ、先の事だが村として10年後のビジョンを示すべき。

村政を問う

９月定例議会 一般質問５人登壇



- 加藤　和泰　ＪＲ米坂線復旧
- 鈴木　紀夫　ふるさと納税／農家支援
- 平田　　広　土木工事入札／ちぐら館の運営
- 加藤つや子　個別避難計画策定
- 近　　敬志　介護予防事業（追跡）

JR米坂線、バスへの転換を容認するのか

村　長　条件付きで容認し、利便性の高いバス路線を検討する



加藤和泰（かとうかずひろ）議員

問　令和４年の豪雨災害から４年が経過したが、ＪＲ米坂線の早期復旧に向けての取組は。

村長　米坂線の復旧に向けては、これまで復旧検討会議で検討を勧めてきたが、より議論を進展させるため、新潟・山形両県に分かれてそれぞれ実務担当者によるワーキンググループを立ち上げた。新潟県側では、地域にとってより利便性の高い持続可能な復旧について検討を進め、選択肢はしぼられつつあると感じている。

協議を続ける中で、課題解決にあたり、ＪＲ東日本には３つの条件を申し上げてきた。一つ目は、地域住民の利便性がしっかりと確保されること。二つ目は、関川村に実質的な負担を生じさせないこと。三つ目は、地域公共交通維持のために、ＪＲも主体的な役割をしっかり果たすこと。まずはこの条件を満たすことが重要であると考えている。

問　今ほどの３つの条件を満たすという条件付でバス転換を容認するという考えでよろしいか。

村長　国や県からも積極的に支援をいただく中で３つの条件を満たした上で利便性の高い魅力あるバス路線に転換できればと考えている。

問　線路の維持管理についてはどのような対応を行ってきたのか。

村長　昨年度は、ＪＲが草刈り一回、除草剤の散布一回を実施した。今後も、ＪＲに対して線路敷地内の適切な管理と除草等の実施を要望していく。



ふるさと納税返礼品の米の取組状況は

村　長　需要喚起の取組みに財源等投入の必要がある



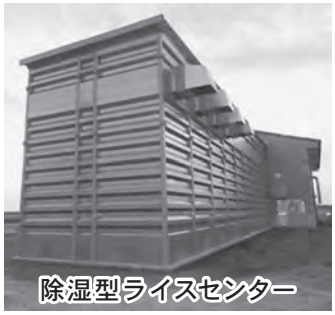
鈴木紀夫（すずきのりお）議員

問　米の先行予約や通年需要に対応し寄附額の維持、増加を図るためには、高品質な「関川産米」のタイムリーな出荷体制の整備・改善が必要と考えるが。

村長　米の返礼品の出品生産者は、現在9名で、このほかにも意欲のある生産者が増えていくことは喜ばしいことである。しかし、ふるさと納税の今の課題としては、供給可能な米の数量に対して、返礼品としての米の需要が少なく、現段階では需要喚起の取組に寄附金を含めた村の財源等を投入する必要があると考えている。

問　質の高い米を返礼品として関川ファン（リピーター）を増やし、村・生産者・納税者の「三方よし」の為に、除湿型ライスセンターの整備を提案する。建設費の半分は国の交付金を充て、25％を交付税措置、残り25％の一般財源分を使用料で補えば実質負担ゼロで整備できる。

村長　需要がないまま供給体制を増やしても、米がふるさと納税につながらない。需要拡大が前提条件ではあるが、他の自治体で進めている農業施策が農家のためになるなら進めたい感はある。財源的に村の負担がないような形であるなら、農業者の意見も吸い上げながら、どのように進めたらいいかは今後の検討課題としたい。



除湿型ライスセンター

土木工事の入札、地元小規模業者にも

村　長　公平性と競争性を確保するため 24年度から制限付き一般競争入札で実施



平田　広（ひらた　ひろし）議員

問　一般土木工事は入札後ほぼ下請に出されているのが現状だが、入札制度の競争性が発揮されているのか疑問がある。下請の現状への所見を伺う。

村長　制限付き一般競争入札は平均落札率が下がる成果がある一方で落札者の寡占化が進み、小規模事業者の多くが下請を担う状態にあると認識している。全ての事業者が村の公共事業の受注を目指し、競争性を更に発揮することを期待。

問　除雪や災害時の対応を熟知している地元小規模事業者を守り育成するため、受注機会の確保が必要。予定価格に応じたランク付けの入札規定は村にもあるが、なぜ運用しないのか。

村長　村発注工事の件数が少なく受注実績がない業者もいるため、村単独でのランク付けは行っていない。しかし、小規模事業者の受注機会確保は育成の観点から重要。どのような方法ならランク付けが可能なのか検討を進めている。

道の駅「ちぐら館」の運営状況は

問　「ちぐら館」5人の職員の内、要を担って来た店長とベテランの女性2人の計3人がほぼ同時に辞めたと聞く。普通ではないと思うが何か不祥事でもあったのか、また、運営状況は。

村長　3人はいずれも自己都合による退職。また、3人の退職後の従業員の補充を行っているが、シフト調整や従業員の業務負担など、少なからず運営面に影響はある。引き続き従業員の募集と合わせて現在地域おこし協力隊を1人募集しているところ。

実効性のある個別避難計画策定を

村　長　策定率30%、村と集落が連携し策定推進



加藤つや子（かとうつやこ）議員

問 災害が頻発する近年、村民の命を守るために実効性のある個別避難計画策定が急がれるが、村の進捗状況を伺う。

村長 現在、37集落に支援を必要とする方が200名おり、8集落60名の個別避難計画が策定済み。策定率は30%である。防災訓練説明会で土砂災害や浸水害の危険性の高い集落から、優先的に村で声掛けし策定して貰っている。

問 計画の実効性を高めるため、今後の防災訓練にどの様に連動させるか。

総務課長 要支援者の避難手法の実習や寝たきりの方、認知症の方などの対応を要援護者が訓練をできるように進めていく。また、今年度の村の防災訓練と併せて、各集落で取り組める自主的な訓練もお願いしている。

問 マイタイムライン※講座開催の推進を。

村長 中学校では全校生徒を対象に毎年、授業の一環としてマイタイムラインを作成し、家族でも話合って作成を呼び掛けている。また、小学校4年生の授業や防災の集落出前講座で、個別避難計画とタイムライン作成のPRも行っている。今後も引き続き県のマイタイムライン出前講座の活用と普及に努めていく。



マイ・タイムライン

※マイタイムラインとは、水害に備え「いつ・誰が・なにを」しておけば落ち着いて、安全に避難できるかを目的につくる避難行動計画

出前講座のメニューに介護予防教室を

村　長　村や社協職員による保健指導・運動指導の活用を



近　敬志（こん　たかし）議員

問 令和7年に新設した男性のみ対象の介護予防講座の効果と課題は。

村長 「男前になろDAY」と題し、65才以上の男性を対象として月に1回コラッシェで開催している。身体機能の一部改善するケースがあったなど、一定の効果があると考える。しかし参加者が10名前後であり伸び悩みが課題。

問 上土沢集落では、子どもと高齢者が一緒に食事やリクリエーションをする機会を設けている。このような機会を他で増やす喚起や環境整備は進めているのか。

村長 上土沢の事例は、介護予防の観点だけでなく、高齢者の社会参加を促す機会になり、子どもや若者の成長につながる優良事例である。村としては、地域の茶の間や、集落行事での世代間交流が進むのは重要と考える。このような事例を広報等で紹介し、様々な意見を聞いていきたい。

問 出前講座のメニューに介護予防教室を取り入れる考えはあるか。

村長 出前講座は、村の取り組みや事業の説明を行なうものであり、介護予防教室とは性格が異なるため考えていない。介護予防教室の一環として地域の茶の間に村や社会福祉協議会の職員が保健指導や運動指導を行っている。



地域の茶の間

議員活動報告

令和８年度 議会モニター紹介!!



任期
令和８年９月１日～
令和10年３月31日

右から（敬称略）
・阿部 喜代志
・五十嵐 紀人
・伊藤 真由美
・梶 真由美
・近 敏一
・須貝 和栄
・鈴木 都子
・松田 晃太
・吉田 恵実
・小林 雅子

町村議会議員研修会

●**7月30日（自治会館）**
●**講師**
青森大学社会学部教授　佐藤 淳 氏
●**演題**
「対話する議会・議員を目指して」
●**内容**
・サウンドカードを活用したグループワークを実施。
※このカードはミーティングにおいて心理的安全性を高め、目指したい方向性を見える化し、具体的な行動を決定するためのミーティング進行補助ツール。
●**研修の考察**
現状に対する問題意識や自分の未来の姿を描き、実現、実行するための具体的な行動内容を決める体験をした。

森林基幹道岩船東部線開設事業促進議員連盟総会

●**9月24日（現地視察）**
●**場所**
関川村管内宮前地区
●**事業期間**
平成28年度～令和18年度
●**起点および終点**
村上市笹平～関川村宮前
●**全体計画事業費約60億円**
全体の事業費：国50％・県50％
●**工事の進捗状況**
約50％であるが、関川村管内宮前地区は工事完了した。





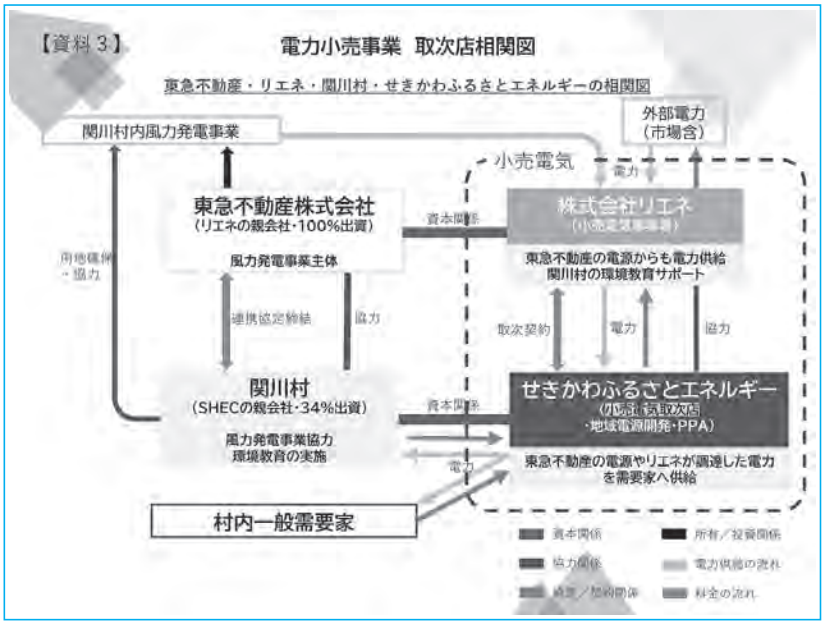
脱炭素特別委員会

●**自営線※マイクログリッド完了説明**
道の駅周辺公共施設を自営線で結んで稼働した。

●**風力発電設備の是正工事実施説明**
早期の発電に向けて電気主任技術者の指導のもと、改善に取り組んでいる。

●**せきかわふるさとエネルギー㈱の現状説明**
資本金を増資し、小売電気事業の準備を進めている。

※**マイクログリッド**とは、一定の地域や施設の中で小規模な発電設備や、蓄電池を組み合わせて電力の地産地消や自給自足を行う「小規模な自立型電力ネットワーク」のこと



村民の声

子育て・教育に最高の村です



ブラビム・バールタウラさん（上関）
（奥さんのスタさんと、息子サミク君）

ネパール・マカンプル群出身。ご家族と暮らすバールさんを紹介します。

Q なぜ関川村に？

A. 鷹ノ巣館での就職を機に関川村に来ました。私は14年前、日本に留学、岡山で暮らしていたのですが、その時に日本が大好きになりました。一旦帰国し、結婚・出産を経て、再来日しました。

Q 関川村に暮らしてみての印象は？

A. みなさん本当に親切でマナーもよくて、安心して暮らせています。

息子に対しても優しく、息子が騒いでいても「大丈夫だよ」と、温かく接してくれます。都会では無いことだと思います。

Q ご近所付き合いはいかがですか？

A. 職場や団地の方以外とは、あまり交流はありません。これから、地元の方とも接する機会を増やして、地域の行事やルール、マナーなどをもっと知りたいです。

Q 休日の過ごし方は？

A. 息子の教育です。宿題の手伝いや、一緒に日本語を勉強します。

日本に来た一番の理由は、息子の教育のためです。日本の教育システムは素晴らしいです。

他には料理や家事などをしています。

Q 暮らしの中で、大変なことはありますか？

A. 雪の多さとクマの出没は不安です。他に、災害や病気の時の対処法がよく分からないし、言葉の壁もあり、心配です。

妻はまだ、日本語があまり分からないので、日本語を学ぶ機会があると助かります。

Q これからの展望をお聞かせください。

A. 日本の科学技術や教育、清潔さ、人の優しさやマナーの良さは本当に素晴らしい。

加えて関川村は、ご近所付き合いや農業も大切にされていて、この環境で暮らせること、子育てできることは有り難いことです。

息子には、ここで学んだことを将来活かして欲しいです。

それと私が好きなバーベキューや音楽、お酒など、地元の方と一緒に楽しみたいです。



自家製マサラチャイ
（スパイスミルクティー）

編集後記

今年は山の木の実が豊富でクマやサルの目撃は少ないものの、イノシシによる田畑の被害報告は後を絶ちません。

有害鳥獣が増加する一方、地域の守り手である猟友会員は減少と高齢化が進み、狩猟者の負担は限界に達しつつあります。

この深刻な担い手不足を解消するため、村では狩猟免許の取得や備品購入の経費を一部補助する育成支援を行っています。

大切な農作物や私たちの安全な暮らしを守るためにも、新たな担い手の育成、そして地域一体となった鳥獣害対策が、切実に求められています。　（お）

お詫びと訂正

議会だより「144号」の掲載記事に誤りがありました。

3ページ、議員評決結果報告における評決結果は可決（誤）→報告（正）と訂正しお詫びいたします。

議会広報常任委員会

委員長　加藤つや子
副委員長　近　敬志
委　員　川崎　哲也
〃　髙橋　正之
〃　菅原　修
〃　平田　広